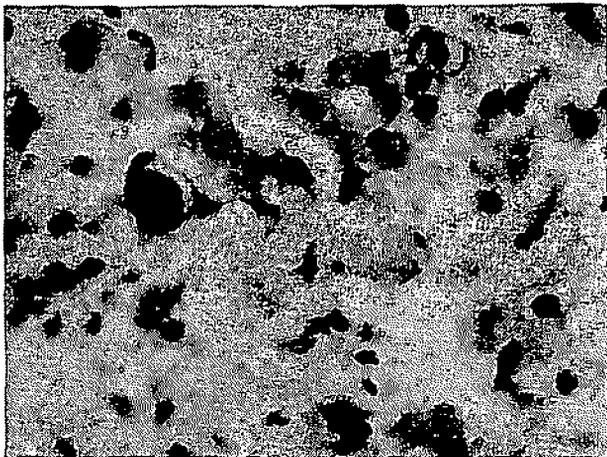


# 鶏の酵母様真菌症

酪農学園大学獣医学科病理教室出題

第9回獣医病理学研修会 標本No.129

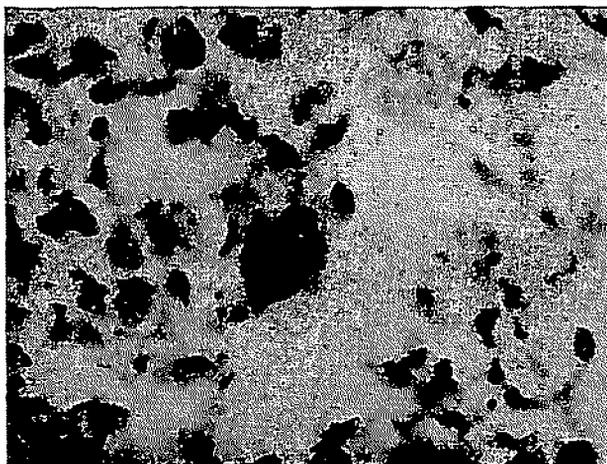
1



3



2



4



酪農学園の飼養実験鶏舎において、高度の削瘦があり、下痢を主徴とする斃死鶏2例に接し、その病変部に酵母様形態を示す物体が認められた。文献的にこれに相当する記載が見当らず、形態学的にそれは真菌（いわば「かび」の類）のある種ではないかと思われた。

白レグ、ハイライン、5ヶ月令、雌、北海道深川産、'68年5月21及び25日に剖検。

**肉眼的：**肺全域に亘り不規則な灰白色無気肺巣、気管内に濃厚粘濁液をいれる。心筋にけし粒乃至米粒大の灰白色斑形成。肝の潤注。腎における灰白色結節の散発。横紋筋の織様変性。悪液質。

**組織学的：**肺は呼吸細気管支無気肺性、不全壊死性、そのため固有組織構造不鮮明、単球及び多様巨細胞が多数存在する。同時にH-Eで弱塩基好性の塵埃様、顆粒状、小腔胞状又は小管状の物体が充満し、又散在性に特有の小球体が認められた。この小球体はPAS染色で構造更に判然とする。典型的なものでは最外層にPAS濃染の厚い被膜様物を有し、この膜様物は時に同心円性に内に数層認められることもあり、中心又は偏心性にPAS陽性の核様物を有し、この核様物は時に膨化、時に濃縮を示す(写真1.2)。前述のH-Eで多数認められた小体もすべて、

PAS陽性を示し、小腔胞状のものより特有小球体への移行像も見られた。この小球体は異物巨細胞内にも認められた。腺胃においては組織崩壊像は認められず、深固有腺固有層に散在する多核巨細胞内に、肺にみられたと略同様の特有小球体がとりこまれていた。特にこの小球体は分芽を思わせる突起を有した(写真3)。

心筋に組織球性反応を伴う巣状性変性。肝に凝固壊死巣密発、こゝにも特有小球体が認められた。腎細尿管に大小不同の好塩基性、PAS陽性の小球体が多数認められ、石灰円柱との区別困難であったが、肺における特有小球体と共通感を有する様に思われた。時に大型の囊胞内に小体の充満、囊胞よりの放出を思わせる像も認められた(写真4)。腸粘膜固有層にも小球体をいれる巨細胞発現。骨格筋に塵埃様石灰沈着を伴う硝子塊状崩壊。

以上の所見より全身に汎発した真菌症と診断した。考えられる真菌として一応 *Candida*, *Cryptococcus*, *Blastomyces*, *Histoplasma*, *Coccidioides* などが挙げられよう。真菌症とする一方全身性石灰沈着かもしれぬという疑念も捨てきれない。

(写真1・2：肺、PAS, 3：腺胃、PAS, 4：腎、H-E, 何れも ×210)